

会長就任のご挨拶

園 田 修 三



この度、会員の皆様方のご推挙により、伝統ある粉体粉末冶金協会の会長という大役を仰せつかり、令和4年より第28代目の会長に就任いたしました。大変光栄であるとともに責任の重大さを痛感しております。皆様方のご支援を賜りながら、この重責をしっかりと果たすことができますよう、力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染者が2020年1月に日本国内で確認されてから早や2年と5ヶ月が過ぎましたが、当初はここまで長期化するとは思いませんでした。今年も年明け早々から新型コロナウイルス感染症「第6波」により、これまでにない速度で急激な感染拡大が始まりました。新規感染者数は2月3日の10万人超えをピークに全国的に減少してきましたが、今までと違い緩やかな減少であり、また新たな変異株の出現により再び増加に転じる可能性もあるともいわれています。まだまだ気を緩めず、基本的な感染予防対策を徹底して、一人ひとりが、うつらない、うつさない行動を心がけていかねばなりません。

現在の情勢は、いまだに続く半導体や部品等の不足に加え、ロシアのウクライナ侵攻や急激な円安などによる燃料価格の高止まり、原材料の高騰や工場停止、減産のニュースが流れぬ日はなく、厳しい状況となっています。また対面での活動が制限され、学会も産業界もなかなか思い通りに交流できないところもあります。この厳しい環境はしばらく続くかと覚悟する必要があるように思いますが、本協会としてはこの局面を技術向上のチャンスと前向きに捉え、一致団結し創意工夫を凝らして、乗り越えていきたいと思っております。

資源の乏しい国「日本」は技術力をさらに伸ばして「ものづくり」を進化させていかねばなりません。近年、研究力・技術力の低下が指摘されています。例えば、注目度の高い科学論文数の国際順位は1990年代前半までは世界3位でしたが、2018年には10位に落ちています。また特許出願数は、バブル崩壊前夜の1990年は圧倒的な数で2位を大きく引き離し、2011年まで一度も世界1位の座を譲ることなく、世界一の特許出願大国でしたが、今は1位の中国に大きく離されての3位となっています。

もちろん多ければいいとは思いますが、以前に参加しました国際会議では特に中国人が多数参加し、活発で熱い発言とエネルギーに圧倒されたことを思い出します。その点、日本人は紳士ではありますが、戦後の高度成長期を支えて来られた諸先輩方の熱い思いが忘れ去られているように感じました。

今年11月13日～15日には同志社大学寒梅館にて「International Conference on Powder and Powder Metallurgy, 2022, Kyoto (JSPMIC2022)」が開催され、国際会議に引き続き2022年度秋季大会も開催される予定です。学会に参加し発表して直接情報交換をこそ、新しい生きた知見が得られます。会員の皆様方には積極的な参加と熱い議論をお願いしたいと思います。

粉末冶金製品の主要取引先である自動車業界は、自動運転、EV化やカーボンニュートラル、いまだに収束しないコロナ禍による環境変化など100年に一度といわれる変革の岐路に立っています。今後、粉末冶金にはより一層の高い性能が要求されますが、その特性や省エネルギーに貢献できる利点を生かして将来的にも大いに発展する可能性を秘めています。これを実現するためにも、本協会として、少子化により学生そのものの減少している中、粉体粉末冶金の魅力積極的にアピールし、人材の獲得と育成に注力するとともに、今まで以上に産学が一体となって研究開発に取り組んで、国際競争力のある技術を生み出せるよう協会活動を充実させていきたいと思っております。

これらの活動を通じて、本協会が学術活動や産業界の発展に貢献できますよう全力で取り組んでまいります。会員の皆様方のご指導とご支援を重ねてお願い申し上げます。